

静岡県近代史研究会

会 報

7 月
2025 年 10 日
月刊第 562 号

< 7 月拡大例会レジュメ >

富士宮市史編さん事業の現状報告（2）

—近現代を中心に—

橋本誠一

今回は 2023 年 7 月拡大例会に続き 2 回目となる富士宮市史編さん事業の現状報告である。前回紹介したように、富士宮市は、2019（令和元）年度に富士宮市史編さん委員会を立ち上げ、翌年度から資料調査を開始した。事業計画期間は 2027（令和 9）年度までの 9 年間である。これも前回紹介したように、今回の富士宮市史編さん事業は資料編、通史編を編むという本格的な市史編さん事業ではなく、いわゆる「図説」にあたるものを全 5 巻刊行するというものである。2026（令和 8）年度に近世編（通史編Ⅱ）、2027 年度に近現代編（通史編Ⅲ）の刊行が予定されている。

先に「本格的な市史編さん事業ではない」と記したが、実際には市史編さん室のご尽力によって新資料の発掘・整理・保存作業がこれまで精力的に行われてきた。そして、収集された資料は逐次デジタル化され、データベース（ファイル共有サービス「Box」）に組み込まれている。その意味で本格的な市史編さん事業に相当する資料調査が行われていると言ってよい。したがって、「図説」の内容もその成果を反映したものになるはずである。ただ、残念ながら、「図説」の性格上叙述できる字数はごくごく限られている。それだけに、私などは将来本格的な市史が編さんされる機会が訪れたときこれらの資料群が十二分に活用されることを願いつつ、毎月の作業に当たっているという次第である。

さて、7 月拡大例会では前回と同様に近現代担当の執筆者がそれぞれの執筆テーマについて報告する。当日の報告テーマは以下の通りである。

13:00～13:40 ①橋本誠一「資料紹介・明治 30 年代富士郡の地方政治―「富士郡は何故に斯く紛議の多きにや」―」

椿野さんは終戦の8月15日、電波探知所建設地から4～5kmの場所の「次郎長開墾地」で、集落の女子青年団の演劇を朝鮮から来ていた農耕兵と共に観る予定だった。各自に自由に玉音放送を聴かせるのはまずいということで、椿野さんはラジオの管理を任せられ、すべて校長室に持ち込んだ。部隊長と校長とが主になって全員を集め、玉音放送を聴かせた。

次郎長開墾地は次郎長の養子、天田五郎が1874年から1884年にかけて開墾。富士市大淵の白髪神社境内に「大俠次郎長開墾記念」碑が建っている。椿野さんらが演劇を鑑賞する予定の建物があつた場所や白髪神社周辺の居住者に訊ねたが、当時のことを知る人は誰もいなかった。

椿野証言で、『戦史叢書』に未記載の電波探知所が、7月初めから8月15日まで造られていたことが判明した。防衛省防衛研究所史料室でこの特設情報隊の史料調査をしたが、該当するものは見当たらなかった。戦争最末期の特設情報隊ゆえ、史料は遺されていなかった。聞き取りによって文献史料の空白を埋めることができたといえよう。

例会のお知らせ

<7月拡大例会>

日時：7月19日（土）13:00～17:00

場所：Web 会議システム ZOOM/鎌倉文庫

申込方法：本誌2ページをご覧ください。

報告者：加藤善夫・森山優・村瀬隆彦・

水谷悟・橋本誠一の各執筆者

内 容：富士宮市史編さん事業の現状報告

（2）― 近現代を中心に ―

<9月例会>

日時：9月20日（土）14:00～17:00

場所：Web 会議システム ZOOM/鎌倉文庫

申込方法：9月会報に掲載します。

報告者：橋本誠一・徳田靖之・黒川みどり

内 容：ミニ・シンポ「地方自治体と

人権・同和教育の現在―“久留米市問題”を考える―

<会報に原稿をお寄せください>

現在、手元に原稿のストックがありません。短いものでも結構ですので、ぜひご寄稿ください。

会報原稿は、下記のアドレスにメールで送ってください。但し、掲載号については会報編集担当者にお任せください。どうぞよろしくお願いいたします。

メールアドレス：cqhq00053@nifty.ne.jp

（会報編集担当：川上）

静岡県近代史研究会会報 第562号（月刊）

2025年7月10日

非売品（非会員は印刷実費100円）

連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室

電話：054-264-5386（直通）

年会費：4,000円（メール会員は3,500円）

ゆうちょ銀行払込口座：00850-6-54573

ホームページ：